

# 医療法人 大宮シティクリニック 年報（2022年度）



健診は、チャンスです。

 **Omiya City Clinic**



# 医療法人 大宮シティクリニック 年報（2022 年度）

## <目次>

I	年報発刊にあたって	理事長 中川高志	1
II	クリニックの新たな活動と指針	副理事長 中川良	2
III	クリニックの最新動向	業務統括本部 亀谷招弘	5
IV	クリニック独自の取り組み	副所長 森山優	7
V	クリニックの歩み		11
VI	基本方針と医療理念		12
VII	概要と基本情報		13
VIII	各種統計・データ	健康相談室 橋西真由美	15
IX	各部門の活動		
	IX-1 医局	副所長 森山優	17
	IX-2 看護部	部門長 中島直美	20
	IX-3 検査部	部門長 桑原香里	21
	IX-4 放射線部	部門長 堀越隆之	23
	IX-5 健康相談室	部門長 橋西真由美	25
	IX-6 総務企画部	部門長 青鹿浩二	28
	IX-7 ISO 委員会	管理責任者 桑原香里 堀越隆之	30
X	編集後記	年報作成委員長 森山優	31

表紙：「シュプリングェン 生き生きと」東京藝術大学名誉教授 宮田亮平先生

## I 年報発刊にあたって



理事長 中川高志

1983年4月に「大宮西口診療所」として誕生した大宮シティクリニックは、40周年を迎えました。大宮西口診療所は、小さいながらも健診機能を有する診療所として当時の最新医療機器とシステムを備え、地域社会に予防医療を普及させるという大きな理想をもってスタートしました。

しかしながら、当時は人間ドック・予防医療に対する人々の意識はそれほど高くなく、開設当初は開店休業の日々が続きました。経営的には非常に厳しくつらい時期でしたが、地元の皆様が私たちの診療所を好意的に受け入れ暖かく見守ってくださったことは、私たちにとって大きな励みでした。

どうにか経営も軌道に乗ってきた1988年4月、さらなる発展を目指しソニックシティビル14階への移転を決意しました。埼玉県では初の高層ビルということとバブル経済が始まったことが相まって、大宮は大変な熱気に包まれ、活気に満ちた街になりました。契約健保、事業所も一気に増え、受診者数も急激に増加していきました。名称も「大宮シティクリニック」と改称し、「すべては受診者のために」をモットーに忙しくも充実した日々を送るようになりました。私たちが理想とした予防医療を実践するクリニックが実現に近づいてきました。

1991年12月、「医療法人大宮シティクリニック」に改組しました。2001年12月には、クリニック運営の透明性を図るためISO9001（品質）およびISO14001（環境）の認証を取得しました。受診者の皆様との信頼関係がさらに深くなり、受診者数が着実に増加していくにつれ14階のフロアは手狭になったため、2010年5月、現在の場所であるソニックシティビル30階に移転しました。30階からの素晴らしい眺望と1600㎡という広々としたフロアで、受診者の皆様をお迎えできるようになりました。

予防医療の普及と実践をさらに推し進めるため、ヘリコバクターピロリ抗体検査、視野検査、ロコモ度テスト、体組成測定などを人間ドックの標準項目に順次導入してきました。また、健康情報発信の場として「健康講座」を開講し、高齢者への健康サポートを目的に「シルバー倶楽部」を創設するなど、受診者サービスの充実にも力を入れてきました。おかげさまで、人間ドック年間受診者数は4万人を突破しました。

大宮シティクリニックはこのようにいろいろと事業を展開、発展させ今日を迎えています。まとまった形で事業報告をしていませんでした。40周年を機会にこれまでの歩みも含め、年報を作成いたしました。謹んで皆様にご報告申し上げます。

## Ⅱ クリニックの新たな活動と指針



副理事長 中川良

2023 年は大宮シティクリニックの 40 周年であり、大きな転換期となる年です。私たちの人間ドックを中心とした予防医療サービスは、多くの皆様から好評をいただいています。そのおかげで、受診者数もスタッフ数も大幅に増加してきました。そして、それに伴い私たちの社会的責任も大きくなってきていると感じています。

私たちの使命は、「予防医療の普及により個人から社会の幸福度の向上に寄与すること」であり、この使命を果たすことが私たちの社会的責任と考えています。2023 年はそのための明確な指針を打ち出し、新たな活動を開始した、私たちにとって極めて重要な年になったと思います。

### <コーポレート・アイデンティティとロゴを新規作成 ～健診は、チャンスです。～>

まず、大きな活動として、「健診は、チャンスです。」というコーポレート・アイデンティティとロゴを作成しました。受診者の皆様にとって「健康診断は自身の健康状態を知るための大切な機会」です。

大宮シティクリニックではその大切な機会を充実したものにするために、スタッフは積極的な学びのもと予防医療を提供しています。そのような当院の姿勢を現すために、コーポレート・アイデンティティとロゴを作成しました。



健診は、チャンスです。

Omiya City Clinic

新しいロゴは、私たちの創業の地である大宮の「大」の字をモチーフに、生命力溢れる人体のシルエットを表現しました。人間ドックを通して皆様の健康を支える、大宮シティクリニックの気持ちをあらわしたデザインです。ブランドカラーには、イルカが泳ぐ豊かな海をイメージした「Lagoon」を採用しました。私たちの歩みとともに、当院受付に設置したイルカのモニュメント「シュプリングン」をイメージし、皆様に安らぎと健康をもたらすという想いが込められています。

## <千葉大学医学部との共同研究講座を開設 ～次世代予防医療創生講座～>


次に、千葉大学大学院医学研究院・消化器内科学（加藤直也教授）との共同研究講座「次世代予防医療創生講座」を設立しました。私たちは「より良い技術と根拠に基づいた予防医療」の提供を行いたいと考えています。その「より良い技術と根拠に基づいた予防医療」の基礎となるのが医学研究です。その医学研究を推進し、予防医療全体の発展に貢献したいと思い、この共同研究講座を設立しました。

共同研究講座では、千葉大学消化器内科で培われた研究成果と、大宮シティクリニックで得られた膨大な健康情報を組み合わせ、社会に適合した予防医療法の開発を目指します。


ロコモティブシンドロームと健康の関連を中心に、脂肪肝や内臓脂肪の予防・改善に有効な運動について解析していく予定です。

配信先：文部科学記者会、科学記者会、千葉県政記者クラブ、PR TIMES

ニュースリリース



**千葉大学**  
CHIBA UNIVERSITY



*Omiya City Clinic*

令和5年 5月15日  
国立大学法人千葉大学

**千葉大学大学院医学研究院と大宮シティクリニックによる  
新たな健康のあり方を探索する共同研究室  
「次世代予防医療創生講座」を開設**

多様化と共に急激に変化する社会において健康の重要性が高まっています。特に厚生労働省の示す Total Health Promotion Plan の様に、自主的・自発的な健康保持増進活動が求められています。国立大学法人千葉大学大学院医学研究院消化器内科学（千葉県千葉市、教授：加藤直也、以下、「千葉大・消化器内科」という。）と医療法人大宮シティクリニック（埼玉県さいたま市、理事長：中川高志、以下、「大宮シティクリニック」という。）は、健康に生きるための新たな方策を探索する共同研究室として、「次世代予防医療創生講座」を2023年4月1日に開設しました。

千葉大・消化器内科では早くから疾患予防の重要性を認識し、肝癌や胃癌などを中心に発癌機構の解明や脂肪肝の発症機構の解明から予防法を研究してきました。これらの研究成果の社会実装により、皆が元気に過ごせる未来の構築を目指しています。また、大宮シティクリニックでは「生涯健康のガイドライン創り～「生き生き」と生きる、豊かな高齢化社会を目指して～」を理念とし、健診機能を有する診療所として予防医療の最前線で活躍してきました。40周年を迎え、次世代の健康を守るための新たな方策を創ることで社会に更なる貢献をすることを目指しています。双方の目標・理念が合致し、本共同研究講座の設置に至りました。

■共同研究講座の取組について：  
本研究講座では、千葉大・消化器内科で培われた研究成果と、大宮シティクリニックで得られる膨大な健康情報を組み合わせ、社会に適合した予防医療法の開発を目指します。特に、運動による疾患予防法の開発に注力していきます。例えば、脂肪肝に有効な運動を活用し、メタボリックシンドロームに関連した疾患に有効な予防法の開発などを行います。また、予防とは少し異なりますが、癌治療の効果を上げる運動法の開発にも着手します。腸腰筋という体の奥にある筋肉の量が、肝癌などの様々な癌の治療効果に影響することが知られています。日常的な運動が癌治療においてどのように有効なのかを示していきます。

千葉大学 プレスリリース

3

### <スポーツとの関わりを推進 ～プロテニス柴原瑛菜選手とスポンサー契約～>

さらに、予防医療の啓発のためにスポーツを取り入れる試みも行っています。大宮シティクリニックの公式 YouTube チャンネル「健康未来講座」では、運動法の解説動画を提供し、スポーツを通じた健康づくりを支援しています。

プロテニスプレーヤー柴原瑛菜選手のスポンサーとなったのも、その一環です。柴原選手の活躍を通じて、スポーツによる健康維持の重要性を広めていきたいと考えています。



#### 柴原瑛菜選手 プロフィール

1998年2月12日 アメリカ合衆国ロサンゼルス出身  
WTA ツアー 通算 8勝 (ダブルス)  
2022年全仏オープン 混合ダブルス 優勝  
2022年全豪オープン 女子ダブルス ベスト4  
2021年全英オープン 女子ダブルス ベスト4  
2020年東京オリンピック 日本代表 (女子ダブルス・混合ダブルス)  
Official Website : <https://enashibahara.com/ja/>

その他、2023年は人間ドックへの体組成測定を導入や「健康講座」の充実、大宮シティクリニックの紹介動画の制作など、さまざまな試みを開始しました。これらすべては受診者の皆様に安心できる予防医療を提供するために行っています。そして、これらの活動を継続することで予防医療の向上に貢献していきたいと思っております。

### Ⅲ クリニックの最新動向

業務統括本部 亀谷招弘

#### <定期健康診断専用フロアの増設（ソニックシティビル2階）>

当院はソニックシティビルの30階をメインフロアとしておりますが、2022年9月1日に同ビル2階に定期健康診断専用のフロアを増設致しました。これにより、従来は30階で人間ドック、生活習慣病予防健診、定期健康診断の各種健診が混在していた状況を解消し、感染予防の観点からも、より安心安全なスペースで受診していただける環境が整いました。待ち時間も大幅に短縮され、よりスムーズな受診が可能となりました。

今後はICT化を推進し、スマート健診施設としての機能も充実させていく計画です。

#### <大型LEDビジョンの設置（ソニックシティビル2階 通路外壁）>

2階定期健康診断専用フロアの通路に面したガラス張り外壁部分に、様々な情報発信を目的とした「埼玉県内最大級のシースルーLEDビジョン」（以下、大型LEDビジョン）を設置致しました。

大型LEDビジョンでは健康に関する知識や疾病予防のための情報を、当院受診者だけでなくLEDビジョン前を通行する近隣のオフィスや住民の皆様にも提供し、地域全体の健康水準の向上に貢献したいと考えております。また、近隣の団体や医療機関のご協力を得て、地域のイベントや取り組みの紹介、健康セミナーや講演会の告知を行い、地域連携も促進していきます。さらには、大型LEDビジョンをデジタル広告スペースとして活用し、地域経済へ貢献することも検討しております。

情報発信は多様なメディアを活用することで、より多くの人々に届けることが可能となります。今後はウェブサイトやSNSと情報発信を連動させ、地域との連携を更に強化していく計画です。



定期健康診断専用フロア



大型LEDビジョン



## < 「人間ドックの日」 記念イベントの実施 (7月12日) >

日本人間ドック学会では、より多くの人に人間ドックの受診を促すことで病気の早期発見につなげ、国民の健康増進に寄与することを目的として、7月12日を「人間ドックの日」と制定しました(2019年)。

当院では「人間ドックの日」の周知のため、7月4日から15日にかけて30階入口壁面にヒマワリやマリーゴールドなどの生花を飾る「フラワーウォールイベント」を開催致しました。7月12日の「人間ドックの日」当日は、来院された皆様へ切り花の無料配布を行い、開設40周年を迎えた感謝の気持ちを直接お伝えする機会にもなりました。

このようなイベントや取り組みは健康意識の向上に寄与するだけでなく、地域とのコミュニケーションや来院される皆様とのつながりを強化し、継続的な受診を促す効果もあります。今後もさまざまな創意工夫を凝らした取り組みを続け、受診者の皆様や地域社会から信頼されるクリニックを目指していきたくと考えております。



フラワーウォールと当院からのメッセージ



埼玉新聞に全面広告を掲載

## IV クリニック独自の取り組み

副所長 森山優

### <ISO（国際標準化機構）9001・14001 認証の取得>（2001年）

当院は2001年、「顧客満足」と「環境保全」を目的として、国際規格ISO（国際標準化機構：International Organization for Standardization）の認証を取得しました。

ISO マネジメントシステム規格にはいくつかの種類があります。「品質マネジメントシステム（ISO 9001）」は、良質なサービスを提供するためのシステムを管理する規格で、顧客満足度の向上を目的とした仕組みです。「環境マネジメントシステム（ISO 14001）」は、環境への影響を分析してリスクを最小限に抑えるためのシステムを管理する規格で、環境保全を目的とした仕組みです。

当院では全ての業務について、ISO の品質・環境マネジメントシステムに準拠したマニュアルを作成して運用しています。

ISO の認証には外部機関による審査が必要です。認証を取得した後も、外部機関による毎年の定期審査と3年毎の更新審査を受ける必要があります。当院では2022年10月に7回目の更新審査を完了し、認証を継続しています。

#### ◎本項に関する学会発表

森山優：ISO マネジメントシステムに基づく、受診者満足度向上に向けた当院の取り組み。第56回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 受診者サービス2（口頭発表）。2015年7月30日、パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

### <視野検査 ドック標準検査項目として導入>（2011年）

高齢者特有の健康問題のひとつとして、2021年に日本眼科学会から「アイフレイル」という概念が提唱されました。アイフレイルは「加齢に伴って眼の脆弱性が増加することによって視機能が低下した状態」と定義され、原因疾患として緑内障が最多（28.6%）です。

緑内障は「視野が障害される疾患」ですが、初期の段階では気づきにくく自覚症状がありません。自覚症状が出た段階では既に進行しており、自立機能の低下や日常生活の制限に直結するため、早期発見が非常に重要となります。緑内障の原因は「眼圧が高い」と考えられていましたが、我が国の緑内障は「正常眼圧緑内障」が9割を占めることがわかっています。自覚症状がなく眼圧も正常な緑内障が非常に多いことから、人間ドック基本検査項目の眼圧検査では早期発見が難しくなっています。

当院ではアイフレイルが提唱される 10 年前の 2011 年から人間ドックの標準検査項目として FDT 視野計を用いた視野検査を導入し、受診者全員を対象に実施しています。

◎本項に関する学会発表

森山優：人間ドック受診者全員を対象とした視野検査導入から 10 年の経過. 第 63 回 日本人間ドック学会学術大会 プレナリーセッション. 2022 年 9 月 2 日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)

<「シルバー倶楽部」の創設 高齢者が受診しやすい仕組みづくり> (2012 年)

当院では 2010 年頃より、開設当初から受診されている世代を中心に「定年退職後は健康保健組合・企業からの補助がなくなるため継続して人間ドックを受診することが難しい」との声が多く寄せられるようになりました。

当院は毎年受診していただいているリピーターの方々が 8 割以上と多く、過去の健診結果の豊富な蓄積があります。退職後も継続して受診していただくことで、過去の結果と比較しながら経年変化を見ることが出来るため、「加齢に伴う数値の自然変化」や「年齢相応」を考慮した柔軟な対応が可能となります。高齢になっても人間ドックを受診しやすい仕組みとして、2012 年に「シルバー倶楽部」を創設しました。

シルバー倶楽部は、(1) 入会時点で 65 歳以上、(2) 健康保健組合、企業、地方自治体の補助を利用しない、(3) 当院で過去 2 回以上の健診受診歴がある、の 3 つの条件を満たす方々を対象として、会員料金で人間ドックを受診していただくことが出来る仕組みです。

会員の方々には、健康長寿と生涯健康の意義を伝える啓発活動として「健康講演会」も実施しています。健康講演会は、クリニックが入居している複合施設「大宮ソニックシティ」内の「市民ホール」(400 名収容) で毎年開催してきました。最近の演題と講師は以下の通りです。

- ・ 2016 年「慢性腎臓病診療の現状と未来」  
横尾隆先生 (東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科 教授)
- ・ 2017 年「早めに気づいて早めの対策 メタボ・認知症予防にも効く足腰の健康」  
石橋英明先生 (医療法人愛友会伊奈病院 整形外科部長)
- ・ 2018 年「血液 1 滴でがんを診断 リキッドバイオプシーの世界動向」  
落谷孝広先生 (東京医科大学分子細胞治療研究部門 教授)
- ・ 2019 年「人間ドック健診 その過去、現在、そして未来」  
篠原幸人先生 (日本人間ドック学会 理事長)
- ・ 2020 年「こうやって防ごう つきあおう認知症」  
古田光先生 (東京都健康長寿医療センター精神科 部長)
- ・ 2021 年、2022 年は新型コロナウイルス感染予防のため開催見送り

- ・2023年「ロコモ&運動指導セミナー」

新井智之先生（埼玉医科大学保健医療学部理学療法科 准教授）

#### ◎本項に関する学会発表

森山優：健診センターにおける高齢受診者への取り組み. 第60回日本人間ドック学会学術大会 シンポジウム2（健康長寿を目指して～高齢者に対する健診のありかた～）. 2019年7月25日, 岡山コンベンションセンター（岡山県岡山市）

#### <ヘリコバクターピロリ抗体検査 ドック標準検査項目として導入>（2014年）

厚生労働省の人口動態統計（2022年）によりますと、日本人の死因の第1位は癌（悪性新生物）で、24.6%を占めています。なかでも胃癌は罹患数で第3位（12万4千人）、死亡数でも第3位（4万2千人）で、大腸癌と肺癌が増加する以前は、長年にわたり罹患数、死亡数とも第1位でした。

胃癌は、ヘリコバクターピロリ（ピロリ菌）という細菌が胃の粘膜に感染して発生することが判明しており、WHO（世界保健機構）は「ピロリ菌は胃癌の確実な発癌因子である」と認定しています。我が国の胃癌は、95%以上がピロリ菌の感染によるものです。

日本人では人口の約3割、3500万人がピロリ菌に感染していると言われています。ピロリ菌に感染すると、「萎縮性胃炎」という胃粘膜の変化を経由して、1年で0.4%、10年では4%の確率で胃癌が発生してきます。

ピロリ菌は内服薬（3種類・1週間）で除菌することが出来るため、萎縮性胃炎の段階で除菌治療を行えば、胃癌発生のリスクを大幅に下げることが可能となります。そのためにはまず、「ピロリ菌に感染しているかどうか」を知ることが非常に重要です。ピロリ菌感染の有無を調べる方法の一つが、血液検査によるヘリコバクターピロリ抗体検査（抗ヘリコバクターピロリ IgG 抗体測定）です。

当院では2014年から人間ドックの標準検査項目としてヘリコバクターピロリ抗体検査を導入し、受診者全員を対象に実施しています。抗体が陽性の場合は、上部消化管造影検査・内視鏡検査の所見を確認した上で、除菌治療を積極的に推奨しています。

#### ◎本項に関する学会発表

山田香子, 中川良：人間ドック検査項目への抗ヘリコバクターピロリ IgG 抗体測定導入後の歩み. 第61回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 消化器（上部消化管）. 2020年11月26日～27日, Web開催

#### <ロコモ度テスト ドック標準検査項目として導入>（2016年）

高齢者特有の健康問題のひとつとして、2007年に日本整形外科学会から「ロコモティブシンドローム」という概念が提唱されました。ロコモティブシンドロームは「運動器の障害

のために移動機能が低下した状態」と定義され、我が国では40代以上の約4600万人が該当すると言われています。

移動機能の低下が進行すると生活活動や社会参加が制限され、最終的には介護が必要な状態となります。国民生活基礎調査（2019年）によりますと、要介護・要支援の原因は運動器の障害が24.8%と最多で、運動器の障害による移動機能の低下が高齢者の社会的自立を阻害する大きな要因となっています。

2013年、日本整形外科学会からロコモティブシンドロームの簡便な判定法「ロコモ度テスト」が発表されました。ロコモ度テストは、2種類の運動テスト（立ち上がりテスト、2ステップテスト）と25項目の問診票（ロコモ25）で構成されています。運動テストで下肢の筋力やバランスを評価し、問診票で身体の状態や生活状況を評価します。ロコモ度の判定は4段階（非該当、ロコモ度1～3）に分類されており、ロコモ度3（移動機能の低下が進行し、社会参加に支障を来している状態）が最も進行した状態です。

当院では2016年から人間ドックの標準検査項目としてロコモ度テストを導入し、受診者全員を対象に実施しています。

#### ◎本項に関する学会発表

森山優：ドック受診者全例を対象としたロコモ度テスト導入から7年の経過. 第64回 日本人間ドック学会学術大会 委員会企画5（高齢者のための健診・予防医療のあり方検討委員会）. 2023年9月2日, Gメッセ群馬（群馬県高崎市）

#### <公式YouTubeチャンネル「健康未来講座」の開設>（2021年）

シルバー倶楽部会員を主な対象とした「健康講演会」は、大宮ソニックシティ内の「市民ホール」（400名収容）にて年1回開催してきましたが、2021年は新型コロナウイルス感染予防の観点から開催を見送りました。

Withコロナにおける啓発活動・情報発信のあり方についてあらためて検討し、2021年5月、クリニックの公式YouTubeチャンネル「健康未来講座」を開設しました。

健康未来講座には、現在まで約40本の動画をアップロードしています。ロコモティブシンドロームについての対談（ロコモチャレンジ推進協議会委員 石橋英明先生／当院理事長 中川高志）や、自宅で簡単に出来るロコモ予防運動の解説と実演（埼玉医科大学保健医療学部准教授 新井智之先生）を中心に掲載しています。

#### ◎本項に関する論文

森山優：健診センターにおける高齢受診者への取り組み（2021年度 高齢者のための健診・予防医療のあり方検討委員会 報告書）. 日本人間ドック学会誌「人間ドック」2022；36：722-729.

## V クリニックの歩み

1983年 4月	「大宮西口診療所」として開設（350㎡）
1985年 4月	日本病院会「優良自動化健診施設」認定を取得
1988年 4月	ソニックシティビル 14階に移転（700㎡） 「大宮シティクリニック」と改称
1991年 12月	「医療法人大宮シティクリニック」に改組
1994年 4月	中央労働災害防止協会「労働者健康保持増進サービス機関」認定を取得
2001年 12月	ISO9001（品質）、ISO14001（環境）認証を取得
2003年 8月	内部全面改装・施設拡張（930㎡） 画像観察デジタルシステムを導入
2005年 5月	日本人間ドック学会「健診施設機能評価」優良施設認定を取得
2008年 4月	マンモグラフィ検診施設・画像認定施設となる
2009年 4月	禁煙外来を開始
2010年 5月	ソニックシティビル 30階に移転拡張（1600㎡） 女性専用フロア（乳房検診・婦人科検診）を設置
2011年 5月	集団指導として「栄養教室」（現・健康講座）を開始
2011年 6月	人間ドック標準項目に視野検査を導入
2012年 4月	「シルバー倶楽部」を創設
2014年 4月	人間ドック標準項目にヘリコバクターピロリ抗体検査を導入
2016年 4月	人間ドック標準項目にロコモ度テストを導入
2017年 5月	施設拡張（2000㎡） ソニックシティビル 29階に画像読影室、検体検査室を移設
2017年 8月	第58回日本人間ドック学会学術大会を主催（大会長：中川高志）
2020年 2月	埼玉県「多様な働き方実践企業認定制度」プラチナ認定を取得
2020年 11月	埼玉県「健康経営認定制度」健康経営実践事業所認定を取得
2021年 5月	公式YouTubeチャンネル「健康未来講座」を開設
2022年 8月	ソニックシティビル 2階に定期健康診断専用フロア（170㎡）を増設
2023年 4月	千葉大学との共同研究講座「次世代予防医療創生講座」を設立 人間ドック標準項目に体組成測定を導入 上部消化管内視鏡画像診断支援 AI「CAD EYE」を導入
2023年 8月	下部消化管内視鏡画像診断支援 AI「CAD EYE」を導入

## VI 基本方針と医療理念

### 生涯健康のガイドライン創り

～「生き生き」と生きる、豊かな高齢化社会を目指して～

当院では1983年の開設以来、医師、受付、看護師、技師など、全ての部門のスタッフが受診者・患者様とのコミュニケーションを大切にする医療を行なってきました。

スタッフ全員が、受診者・患者様の気持ちを尊重したコミュニケーションを心がけ、たゆまぬ努力を続けることで、ひとりひとりに合った医療を提供しています。

また、おもてなしの心を大切に、診察室から待合室に至るまで、よりよい医療環境づくりを目指しています。最新医療機器の導入はもちろん、受診時の居心地のよさにもこだわることで、暖かみを感じられるクリニックでありたいと考えています。

- ・ コミュニケーションを大切にした、分かりやすく、安心できる医療を提供いたします
- ・ 最新技術への積極的な取り組みにより、正確で、迅速な検査を行ないます
- ・ プライバシーを尊重したセキュリティシステムで、個人情報をお守りします
- ・ 第三者の認定基準を取得することで、開かれた医療を実践いたします
- ・ 快適で、やさしさの感じられる医療環境を大切にしています

「すべては受診者・患者様のため」それが、私たちが理想とする医療の姿です

## Ⅶ 概要と基本情報

### <名称>

医療法人 大宮シティクリニック

### <基本理念>

生涯健康のガイドライン創り ～「生き生き」と生きる、豊かな高齢化社会を目指して～

### <所在地>

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル 30 階

### <理事長>

中川高志

### <開設年月日>

1983 年 4 月 1 日

### <正職員数>

120 名

### <年間受診者数（2022 年度）>

人間ドック：40646 名 生活習慣病予防健診：11990 名 定期健康診断：10531 名

### <敷地面積>

2170 m<sup>2</sup>（総面積）

30 階：1600 m<sup>2</sup>（健診メインフロア、外来フロア、内視鏡センター、受付、事務室）

29 階：400 m<sup>2</sup>（画像読影室、検体検査室、健康相談室、会議室）

2 階：170 m<sup>2</sup>（定期健康診断専用フロア）

### <医療設備>

上部消化管内視鏡：5 台 下部消化管内視鏡：1 台 超音波診断装置：8 台

X 線一般撮影装置：2 台 X 線透視装置：4 台 マンモグラフィ：2 台

80 列マルチスライス CT スキャナ：1 台（Canon TSX-036A）



#### <各種認定>

- ISO9001（品質）、ISO14001（環境）認証（2001年12月）
- 日本人間ドック学会「健診施設機能評価」優良施設認定（2005年5月）
- 埼玉県「多様な働き方実践企業認定制度」プラチナ認定（2020年2月）
- 埼玉県「健康経営認定制度」健康経営実践事業所認定（2020年11月）

#### <連携登録医療機関（埼玉県）>

- 自治医科大学附属さいたま医療センター（さいたま市大宮区）
- 獨協医科大学埼玉医療センター（越谷市）
- 埼玉医科大学病院（入間郡）
- 埼玉県立がんセンター（北足立郡）
- 埼玉県立循環器・呼吸器病センター（熊谷市）
- さいたま赤十字病院（さいたま市中央区）
- 埼玉メディカルセンター（さいたま市浦和区）
- さいたま北部医療センター（さいたま市北区）
- 彩の国東大宮メディカルセンター（さいたま市北区）
- 埼玉県済生会川口総合病院（川口市）
- 上尾中央総合病院（上尾市）
- 新久喜総合病院（久喜市）

#### <連携登録医療機関（東京都）>

- 東京大学医学部附属病院（文京区）
- 東京医科歯科大学病院（文京区）
- 順天堂大学医学部附属順天堂医院（文京区）
- 帝京大学医学部附属病院（板橋区）
- 虎の門病院（港区）
- がん研究会有明病院（江東区）
- 佐々木研究所附属杏雲堂病院（千代田区）

#### <連携登録医療機関（千葉県）>

- 東京慈恵会医科大学附属柏病院（柏市）

## Ⅷ 各種統計・データ

健康相談室 橋西真由美

### <各種健康診断 年間受診者数>

#### (1) 人間ドック

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	29,903	31,592	33,584	35,193	36,228	36,940	37,588	35,281	38,378	40,646
男 性	17,250	18,179	19,163	20,045	20,710	21,148	21,682	21,081	22,478	23,854
女 性	12,653	13,413	14,421	15,148	15,518	15,792	15,906	14,200	15,900	16,792
リピート率	81.2%	82.8%	82.2%	83.3%	84.3%	85.3%	86.2%	86.3%	87.7%	86.3%

#### (2) 生活習慣病予防健診

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	11,611	11,819	11,999	12,602	12,647	12,773	12,637	11,606	11,661	11,990
男 性	5,535	5,641	5,937	6,175	6,281	6,236	6,006	5,863	5,826	5,936
女 性	6,076	6,178	6,062	6,427	6,366	6,537	6,631	5,743	5,835	6,054
リピート率	80.5%	81.7%	79.8%	80.4%	82.5%	82.4%	79.8%	81.3%	83.1%	82.4%

#### (3) 定期健康診断

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	11,545	12,414	13,709	11,088	10,812	11,196	10,373	10,046	10,130	10,531
男 性	5,881	6,097	6,908	5,567	5,282	5,316	5,226	5,261	5,453	5,666
女 性	5,664	6,317	6,801	5,521	5,530	5,880	5,147	4,785	4,677	4,865
リピート率	67.8%	68.0%	65.0%	67.9%	68.7%	66.4%	65.8%	64.5%	69.1%	65.8%

### <外来診療 年間患者数>

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	21,172	20,858	16,077	15,522	15,652

<検査種類別 年間実施件数>

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
胸部X線	59,522	59,313	55,784	59,011	61,942
胸部CT	1,473	1,273	1,088	1,179	1,241
喀痰細胞診	1,288	1,191	996	1,041	1,120
胃部X線	31,824	31,123	28,871	29,442	29,630
胃内視鏡	13,392	14,141	13,392	15,421	17,065
ピロリ抗体	16,184	14,989	12,166	12,240	12,693
便潜血	49,147	49,650	46,924	49,936	52,587
腹部超音波	41,559	42,058	39,658	42,446	44,883
マンモグラフィ	10,376	10,322	9,272	9,969	10,405
乳腺超音波	11,407	11,080	10,102	10,865	11,328
子宮細胞診	16,003	15,571	13,724	14,600	15,094
PSA	9,329	9,743	9,434	10,323	11,102

<がん症例実態調査（日本人間ドック学会） 発見件数>

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
肺 癌	14	15	7	12	7
胃 癌	23	10	14	12	11
大 腸 癌	35	42	33	39	29
乳 癌	41	35	46	41	41
子 宮 癌	8	7	3	3	1
前 立 腺 癌	14	19	20	24	29
そ の 他	30	30	26	35	32
合 計	164	158	149	166	150

## IX 各部門の活動

### IX-1 医局

副所長 森山優

#### <概要>

医局はこれまで、常勤医師 6 名（内科 4 名、放射線科 2 名）と常勤歯科医師 1 名の体制で運営してきました。

2023 年 4 月より新たに千葉大学消化器内科から内科医師 1 名を迎え、常勤 8 名の体制となりました。

非常勤医師は大学病院の医師を中心に約 70 名が勤務しており、人間ドック結果説明面談、婦人科検診、消化管内視鏡検査、心臓超音波検査、糖尿病専門外来、呼吸器専門外来、循環器専門外来等の業務に従事しております。

・非常勤医師の在籍大学病院

東京大学、東京医科歯科大学、東京慈恵会医科大学、順天堂大学、国際医療福祉大学、埼玉医科大学、自治医科大学 等

#### <学会認定資格>

常勤医師の各種認定資格は、以下の通りです。

・ 日本人間ドック学会 人間ドック健診指導医	3 名
・ 日本人間ドック学会 人間ドック健診専門医	4 名
・ 日本消化器病学会 消化器病専門医	3 名
・ 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医	3 名
・ 日本肝臓学会 肝臓専門医	3 名
・ 日本医学放射線学会 放射線診断専門医	2 名
・ 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医	3 名
・ 肺がん CT 検診機構 肺がん CT 検診認定医	1 名
・ 日本医師会 認定産業医	5 名

#### <論文>

- ・ 森山優：健診センターにおける高齢受診者への取り組み（2021 年度 高齢者のための健診・予防医療のあり方検討委員会 報告書）。日本人間ドック学会誌「人間ドック」2022；36：722-729.

### <学会発表>

- ・森山優：人間ドック受診者全員を対象とした視野検査導入から10年の経過. 第63回日本人間ドック学会学術大会 プレナリーセッション. 2022年9月2日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・中川良：人間ドックにおけるFib-4 indexの分布とその活用法. 第64回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 肝臓1 (口頭発表). 2023年9月1日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)
- ・森山優：ドック受診者全例を対象としたロコモ度テスト導入から7年の経過. 第64回日本人間ドック学会学術大会 委員会企画5 (高齢者のための健診・予防医療のあり方検討委員会). 2023年9月2日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)

### <学会座長>

- ・森山優：学術委託研究と人材発掘新プロジェクト報告. 第63回日本人間ドック学会学術大会 委員会企画1 (健診の有用性に関する研究・論文活性化委員会). 2022年9月2日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・中川高志：組織運営 (施設運営) 1 (口頭発表). 第63回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2022年9月2日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・中川一美：乳腺1 (ポスター発表). 第63回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2022年9月2日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・森山優：ロコモティブシンドローム・フレイル (口頭発表). 第63回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2022年9月3日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・中川良：肝・胆・膵・脾 (ポスター発表). 第63回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2022年9月3日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市)
- ・森山優：学術委託研究と人材発掘新プロジェクト報告. 第64回日本人間ドック学会学術大会 委員会企画2 (健診の有用性に関する研究・論文活性化委員会). 2023年9月1日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)
- ・森山優：ロコモティブシンドローム・フレイル (口頭発表). 第64回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2023年9月1日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)
- ・中川高志：業務の効率化・見直し (口頭発表). 第64回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2023年9月2日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)
- ・中川一美：乳腺1 (口頭発表). 第64回日本人間ドック学会学術大会 一般演題. 2023年9月2日, Gメッセ群馬 (群馬県高崎市)
- ・中川良：予防医療を見据えたがんスクリーニングマーカー開発の展望. 第43回日本分子腫瘍マーカー研究会 シンポジウム2. 2023年9月20日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

#### <講演>

- ・森山優：高齢化社会を見据えた当院の取り組みについて～ロコモ度テストと視野検査を中心に～. 2023年度 日本人間ドック学会定時社員総会 記念講演. 2023年6月22日, 主婦会館プラザエフ (東京都千代田区)

#### <講習会の主催>

- ・君塚孝雄, 新藤昇：胸部X線の読影. 第1回大宮シティクリニック肺がん検診講習会 (日本肺癌学会「肺癌診断を主とした胸部X線読影講習会」認定講習会). 2023年2月18日, Web開催

#### <関連学会・研究会への参加>

- ・第81回日本医学放射線学会総会. 2022年4月14日～17日, パシフィコ横浜/Web開催 (神奈川県横浜市)
- ・第108回日本消化器病学会総会. 2022年4月21日～23日, 京王プラザホテル/Web開催 (東京都新宿区)
- ・第58回日本肝臓学会総会. 2022年6月2日～3日, パシフィコ横浜/Web開催 (神奈川県横浜市)
- ・虎の門病院肝疾患診療連携研修会「虎の門病院脂肪肝最新情報～紹介基準から最新治療まで～」. 2022年6月19日, 赤坂インターシティ AIR (東京都港区)
- ・第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2022年9月2日～4日, 東京ドームホテル/Web開催 (東京都文京区)
- ・第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW). 2022年10月27日～30日, 福岡国際センター/Web開催 (福岡県福岡市)
- ・第109回日本消化器病学会総会. 2023年4月6日～8日, 出島メッセ長崎/Web開催 (長崎県長崎市)
- ・第82回日本医学放射線学会総会. 2023年4月13日～16日, パシフィコ横浜/Web開催 (神奈川県横浜市)
- ・第59回日本肝臓学会総会. 2023年6月15日～16日, 奈良コンベンションセンター/Web開催 (奈良県奈良市)
- ・第43回日本分子腫瘍マーカー研究会. 2023年9月20日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

## IX-2 看護部

部門長 中島直美  
年報委員 梶川歩美

### <概要>

看護部は健診部門と外来部門の2つで構成されており、看護師 22 名（常勤 20 名、非常勤 2 名 うち外来部門 6 名）、保健師 3 名、アシスタント 9 名（うち外来部門 3 名）、ロコモトレーナー 3 名の体制で運営しています。

健診部門は、面談（情報収集、健診後のフォローアップと受診勧奨等）及び、血圧測定、視力検査、採血、診察介助、婦人科検診介助、ロコモ度テスト、体組成測定等の業務に従事しています。

外来部門は、一般外来診察・人間ドック結果説明面談の介助、上下部消化管内視鏡検査の介助と前処置、禁煙外来等の業務に従事しています。

### <認定資格>

常勤職員の各種認定資格は、以下の通りです。

- ・日本消化器内視鏡技師会 消化器内視鏡技師 6 名
- ・日本人間ドック学会 人間ドック健診情報管理指導士 2 名
- ・アメリカ心臓協会 BLS ブロバイダー 6 名

### <外部研修会・講習会への参加>

- ・日本消化器内視鏡技師会「第 89 回日本消化器内視鏡技師学会」． 2022 年 11 月 14 日～30 日， オンデマンド配信
- ・日本人間ドック学会「人間ドック健診情報管理指導士研修会」． 2023 年 1 月 20 日～2 月 20 日， オンデマンド配信
- ・日本消化器内視鏡技師会「第 90 回日本消化器内視鏡技師学会」． 2023 年 5 月 26 日～27 日， オンデマンド配信
- ・アメリカ心臓協会「BLS 講習会」． 2023 年 5 月 27 日， 大宮シティクリニック会議室
- ・埼玉県消化器内視鏡技師会「第 57 回埼玉内視鏡講習会及び機器取扱い講習会」． 2023 年 7 月 2 日， 大宮ソニックシティ小ホール（埼玉県さいたま市）
- ・日本消化器内視鏡技師会「第 19 回消化器内視鏡看護セミナー」． 2023 年 7 月 28 日～8 月 10 日， オンデマンド配信

## IX-3 検査部

部門長 桑原香里

年報委員 春山光

### <概要>

検査部は、臨床検査技師 24 名（常勤 22 名、非常勤 2 名）の体制で運営しています。

検体検査（血液学、生化学、尿、便潜血）と生理機能検査（身体計測、聴力、眼圧、眼底、視野、心電図、超音波（腹部・乳腺・甲状腺・頸動脈）、及び採血業務を担当しています。

当院では、検体検査・生理機能検査のすべての技術を全員が習得し、誰もがどの検査も行える体制を取っているのが特徴です。

### <認定資格>

常勤職員の各種認定資格は、以下の通りです。

・日本超音波学会 超音波検査士（消化器領域）	10 名
・日本超音波学会 超音波検査士（体表臓器領域）	6 名
・日本超音波学会 超音波検査士（循環器領域）	1 名
・日本乳がん検診精度管理中央機構 乳がん検診超音波検査実施技師	2 名
・日本臨床検査医学会 緊急臨床検査士	4 名
・日本臨床検査医学会 2 級臨床検査士（血液学）	2 名
・日本不整脈心電学会 心電図検定 1 級	6 名
・日本不整脈心電学会 心電図検定 2 級	5 名
・アメリカ心臓協会 BLS プロバイダー	6 名
・アメリカ心臓協会 ACLS プロバイダー	1 名

### <学会発表>

- ・塚田こず恵：人間ドックにおける多発性嚢胞腎のスクリーニングの重要性. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 腎・尿路 3（口頭発表）. 2022 年 9 月 2 日, 幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）
- ・高橋千草：聴力と生活習慣病の関係. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 眼・耳・鼻・咽・喉頭 1（口頭発表）. 2022 年 9 月 3 日, 幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）



### <外部研修会・講習会への参加>

- ・埼玉県臨床検査技師会「初心者の為の臨床化学～採血・採血管から日常業務に関わる色々なこと～」。2022年5月10日，Web開催
- ・日本臨床衛生検査技師会「認定心電図検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会 PartXI」。2022年6月1日～30日，Web開催
- ・神奈川乳房（超音波）画像研究会「乳腺画像所見の基礎<腫瘍>」。2022年7月12日，Web開催
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構「超音波検査従事者の為のMMG読影講習会」。2022年7月17日，名古屋医療センター特別会議室（愛知県名古屋市）
- ・大塚製薬「多発性嚢胞腎 Web Seminar－早期発見・早期治療の重要性－」。2022年7月21日，Web開催
- ・キャノンメディカルシステムズ「Dr.市原の白熱教室～画像を物語るための病理学～」。2022年6月14日～7月22日，Web開催
- ・神奈川乳房（超音波）画像研究会「乳腺画像所見の基礎<石灰化>」。2022年10月24日，Web開催
- ・埼玉県臨床検査技師会「埼玉心電図スペシャリスト 2022 スマホで問題に挑戦！実力確認!」。2022年10月28日，Web開催
- ・キャノンメディカルシステムズ「第2回 膵臓 US エキスパート養成セミナー(PNUTS)」。2023年2月10日，兵庫医科大学10号館／Web開催（兵庫県西宮市）
- ・アメリカ心臓協会「BLS講習会」。2023年5月27日，大宮シテイククリニック会議室
- ・埼玉県臨床検査技師会「尿検体の取扱い方！それぞれの立場から解説します」。2023年6月29日，Web開催
- ・埼玉県臨床検査技師会「尿沈渣を極める（1）～赤血球、白血球編～」。2023年7月18日，Web開催

### <精度管理>

- ・日本医師会 臨床検査精度管理調査：99.7点（2022年9月）
- ・日本臨床衛生検査技師会 臨床検査精度管理調査：A判定（2023年6月）

### <その他>

- ・超音波診断装置 3台増設（2022年8月）
- ・生化学自動分析装置 買替え（Canon TBA-FX8）（2023年1月）
- ・検体検査外注委託先 株式会社ビー・エム・エルに変更（2023年4月）
- ・体組成計 1台導入（TANITA MC-780A-N）（2023年4月）
- ・眼底カメラ 1台増設（2023年7月）

## IX-4 放射線部

部門長 堀越隆之  
年報委員 中澤浩子

### <概要>

放射線部は、診療放射線技師 14 名（常勤 13 名、非常勤 1 名）の体制で運営しています。

一般撮影検査、上部消化管造影検査、骨密度測定、CT 検査、マンモグラフィ検査、超音波検査（腹部・乳腺）を担当しています。また、上下部消化管内視鏡検査の介助も担当しています。

### <認定資格>

常勤職員の各種認定資格は、以下の通りです。

- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 7 名
- ・日本消化器内視鏡技師会 消化器内視鏡技師 5 名
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 乳がん検診超音波検査実施技師 1 名
- ・乳房健康研究会 ピンクリボンアドバイザー（中級） 1 名
- ・肺がん CT 検診認定機構 肺がん CT 検診認定技師 1 名
- ・アメリカ心臓協会 BLS プロバイダー 6 名

### <学会発表>

- ・市川裕也：人間ドックでの上部消化管内視鏡検査の補助診断 AI の導入に関する検査施行医の意識調査. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会 一般演題 健診施設の先進的・効果的な取り組み紹介 5（ポスター発表）. 2023 年 9 月 1 日, G メッセ群馬（群馬県高崎市）

### <講習会の企画・運営>

- ・君塚孝雄, 新藤昇：胸部 X 線の読影. 第 1 回大宮シティクリニック肺がん検診講習会（「肺癌診断を主とした胸部 X 線読影講習会」認定講習会）. 2023 年 2 月 18 日, Web 開催

### <外部研修会・講習会への参加>

- ・キャノンメディカルシステムズ マンモグラフィオンラインユーザーセミナー「新画像処理 Charmer・画質評価と読影のポイント」. 2022 年 6 月 25 日, Web 開催
- ・埼玉乳房画像研究会「第 78 回画像の向こうの患者をみよう勉強会（症例検討会）」. 2022 年 11 月 2 日, Web 開催

- ・富士フィルムメディカル WEB セミナー「AI 技術を駆使した放射線画像診断の世界」. 2023 年 1 月 19 日, Web 開催
- ・関西乳腺エコーセミナー「マルチモダリティにおける超音波検査の役割」. 2023 年 2 月 11 日, Web 開催
- ・富士フィルム WEBINAR FRIDAYS「基準撮影法における透視観察と追加撮影のポイント～検診発見症例から学ぼう～」. 2023 年 2 月 24 日, Web 開催
- ・第 65 回埼玉消化管撮影研究会「内視鏡診断から学ぶ胃透視撮影」. 2023 年 3 月 23 日, Web 開催
- ・アメリカ心臓協会「BLS 講習会」. 2023 年 5 月 27 日. 大宮シティクリニック会議室
- ・埼玉県消化器内視鏡技師会「第 57 回埼玉県消化器内視鏡講習・機器取扱い講習会」. 2023 年 7 月 2 日, 大宮ソニックシティ小ホール (埼玉県さいたま市)
- ・浜松やらま胃会「第 57 回浜松やらま胃会 基準撮影法の注意点」. 2023 年 7 月 7 日, Web 開催
- ・埼玉県診療放射線技師会「第 7 回 SART 学術ナイトセミナー～画像検査のワンポイントアドバイス～」. 2023 年 7 月 20 日, Web 開催
- ・埼玉消化管撮影研究会「第 66 回埼玉消化管撮影研究会 新しい透視画像処理技術 DeEP・症例検討会」. 2023 年 7 月 26 日, Web 開催
- ・千葉県消化器内視鏡技師研究会「第 18 回千葉県消化器内視鏡技師研究会 緊急内視鏡検査の実際とメディカルスタッフに期待する役割」. 2023 年 8 月 6 日, Web 開催

#### <その他>

- ・上部消化管内視鏡画像診断支援 AI「CAD EYE (富士フィルム)」導入 (2023 年 4 月)
- ・下部消化管内視鏡画像診断支援 AI「CAD EYE (富士フィルム)」導入 (2023 年 8 月)
- ・埼玉消化管撮影研究会 世話人 (堀越隆之)
- ・埼玉県診療放射線技師会 役員 (堀越隆之)

## IX-5 健康相談室

部門長 橋西真由美  
年報委員 木原翔太

### <概要>

健康相談室は、全ての健診結果を一元で管理する部門として設立されました。また、健診結果に関する受診者との対応窓口、他の医療機関との対応窓口としての役割も担っています。保健師3名、管理栄養士2名、事務職2名の体制で運営しています。

### <業務構成>

- ・健康診断の判定に関わる業務
  - 判定結果、読影所見等の管理
  - 健診結果表の作成
- ・保健指導
  - 特定保健指導の実施
  - 健診受診者および外来患者への栄養指導、保健指導
- ・意見・要望の把握、改善活動
  - 健診結果等に対する電話での問い合わせ対応
- ・事後管理（フォローアップ）
  - 健診後のフォローアップ（異常値データの管理・対応、精密・再検査指示者の追跡等）
  - 紹介状の管理
  - 悪性新生物症例のデータ管理、フォローアップ
  - 紹介先医療機関やかかりつけ医との医療連携
  - 各種統計、報告（健診結果の分析・評価）
- ・情報の提供
  - 「健康講座」の企画運営（ドック受診者を対象とした健診当日の集団指導）
  - 「健康相談室だより」の作成（健康情報リーフレット 年4回発行）
  - 「健康未来講座」での情報発信（クリニック公式YouTubeチャンネル）
  - その他各種健康情報、医療情報の発信

### <認定資格>

常勤職員の各種認定資格は、以下の通りです。

- ・日本人間ドック学会 人間ドック健診情報管理指導士 5名
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士 1名

- ・安全衛生技術試験協会 第一種衛生管理者 2名
- ・日本医療教育財団 メディカルクラーク 2名
- ・アメリカ心臓協会 BLS プロバイダー 2名

#### <外部研修会・講習会への参加>

- ・日本人間ドック学会「人間ドック健診情報管理指導士研修会」． 2022年6月3日～7月4日， オンデマンド配信
- ・埼玉県保険者協議会「生活習慣病健診対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修研修会」． 2022年9月20日， 埼玉県国保会館（埼玉県さいたま市）
- ・川越市国民健康保険課「川越市国民健康保険特定保健指導従事者研修会」． 2022年12月23日， ウェスタ川越（埼玉県川越市）
- ・川越市国民健康保険課「川越市国民健康保険特定保健指導従事者研修会」． 2023年3月14日， ウェスタ川越（埼玉県川越市）
- ・アメリカ心臓協会「BLS講習会」． 2023年5月27日， 大宮シティクリニック会議室
- ・日本人間ドック学会「人間ドック健診情報管理士 2023年度ブラッシュアップ研修会」． 2023年7月8日， 品川フロントビル（東京都品川区）

#### <情報発信>

- ・日本医学会連合「フレイル・ロコモ克服のための医学会宣言」に準拠したフレイル・ロコモティブシンドローム啓発スライドを作成し、健診フロア内サイネージにて放送開始（2022年9月1日～）
- ・健康講座のテーマを「コツコツ貯めよう！貯筋通帳～10秒から始める幸せ貯筋～」に変更（2022年9月1日～）
- ・「乳房・婦人科検診結果通知書」の裏面に乳房自己触診法と高濃度乳房についての解説を追加し、詳細情報をクリニックホームページに掲載（QRコードでアクセス）
- ・YouTubeチャンネル「健康未来講座」に、健康講座「貯筋通帳」で紹介している運動の解説動画を追加（埼玉医科大学保健医療学部 新井智之先生監修）
- ・世界禁煙デー（5月31日）啓発ポスターを禁煙週間にあわせて院内に掲示（2023年5月31日～6月6日）

#### <院内勉強会の企画・開催>

- ・「運動講習」． 講師：MTXアカデミー 吉田（2022年6月10日）
- ・「ロコモ・フレイルについて」． 講師：埼玉医科大学保健医療学部 新井智之， 森田泰裕， 丸谷康平（2022年10月15日、22日、29日）
- ・「FIB-4 indexについて」． 講師：大宮シティクリニック副所長 森山優（2023年3月22日）

#### <「健康相談室だより」の作成・発行>

- ・ No.80「タニタの体組成計を導入しました／高濃度乳房について／筋力は 40 歳から衰える～自宅でできる筋力トレーニングのすすめ～」(2022 年 6 月 10 日)
- ・ No.81「健康講座が新しくなりました／高濃度乳房について／医療連携病院紹介 佐々木研究所附属杏雲堂病院」(2022 年 9 月 9 日)
- ・ No.82「第 63 回日本人間ドック学会／難聴とフレイル ユニバーサル・サウンドデザイン 聴脳科学総合研究所所長 中石真一路／聴力と生活習慣病の関係」(2022 年 12 月 10 日)
- ・ No.83「人間ドックの項目に FIB-4 index を追加します／肝臓の硬さの指標 FIB-4 index／人間ドックにおける常染色体優性多発性嚢胞腎のスクリーニングの重要性」(2023 年 3 月 11 日)
- ・ No.84「上部内視鏡検査に補助診断 AI (CAD EYE) を導入しました／医療連携病院紹介 東京医科歯科大学病院消化管外科／コロナ禍における当クリニックの取り組み」(2023 年 6 月 10 日)

#### <その他>

- ・ 日本人間ドック学会「がん症例実態調査 2022 年度分」調査票 提出
- ・ 厚生労働省「全国がん登録」届出 提出
- ・ 大宮法人会講演会にて「健康講座とロコモ検査体験会」を実施 (2022 年 12 月 19 日)
- ・ 日本人間ドック学会「健診施設実態調査 2021-2022 年分」提出 (2023 年 1 月 23 日)
- ・ 埼玉機械工業健康保険組合講演会にて「健康講座とロコモ検査体験会」を実施 (2023 年 3 月 10 日)
- ・ マンモグラフィ検査「極めて高濃度」の所見該当者に対し「乳房・婦人科検診結果通知書」への記載を開始 (2023 年 4 月 1 日～)
- ・ 埼玉医科大学保健医療学部インターン協力：院内に掲示した学生考案の「健康講座」案内ポスターの効果について講座参加者にアンケート調査を実施 (2023 年 6 月 8 日～7 月 1 日)

## IX-6 総務企画部

部門長 青鹿浩二  
年報委員 岩田真由

### <概要>

総務企画部は、企画グループ（営業部門、予約部門）、事務グループ（受付部門、請求部門）、経理総務グループの3グループ5部門で構成されています。営業2名・予約16名（パート含む）、受付14名（パート含む）、請求4名、経理総務1名の体制で運営しています。

### <業務構成>

- ・企画グループ（営業部門）
  - 健康診断の契約業務（健康保険組合、仲介業者、事業所）
  - 産業医の契約業務（事業所）
- ・企画グループ（予約部門）
  - 電話及びWebでの予約業務（個人、団体）
  - 健康診断事前資料の発送
- ・事務グループ（受付部門）
  - 来院者（健診、外来）の受付対応
- ・事務グループ（請求部門）
  - 領収書、月締め請求書の発行
- ・経理総務グループ
  - 売上の管理（日報・月報集計、決算処理）
  - 職員人事管理（勤怠管理、給与入金・振込管理）

### <認定資格>

常勤職員の各種認定資格は、以下の通りです。

- ・医療事務 5名

### <学会発表>

- ・亀谷招弘：コロナ禍における当院の先進的・効果的取組についての報告。第63回日本人間ドック学会学術大会 大会企画「全国の施設の先進的・効果的な取り組み」（ポスター発表）。2022年9月2日、幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）

#### <2階 定期健康診断専用フロア関連>

- ・内覧会の実施（2022年7月28日～29日、8月15日～17日、9月3日）  
健康保険組合、仲介業者、事業所の関係者を招待
- ・大型LEDビジョンの設置（2022年7月）  
店舗プロモーションや健診オプション検査紹介動画、「健康未来講座」を放映
- ・定期健康診断フロアガイドの作成（2023年6月）

#### <消化管内視鏡検査予約枠の拡大>

- ・上部消化管内視鏡検査枠（午後ドック実施分）  
2022年9月～ 月曜：19名→30名、火曜～金曜：各16→20名  
2023年8月～ 月曜：30名（変更なし）、火曜～金曜：各20名→30名
- ・下部消化管内視鏡検査枠（ドックオプション検査）  
2023年6月～ 火曜・水曜：各2名→3名、金曜：0名→3名

#### <シルバー倶楽部関連>

- ・健康講演会の企画・運営（2023年3月29日、ソニックシティ市民ホール）  
「ロコモ&運動指導セミナー」（講師：埼玉医科大学保健医療学部 新井智之先生）

#### <その他>

- ・一括登録システムの導入（2022年12月）
- ・ふるさと納税返礼品協力事業者登録（2023年1月）
- ・人間ドック年間受診者数4万名超を達成（2022年度受診者数：40646名）  
2023年3月24日、4万名に到達
- ・新規オプション検査「miSignal（マイシグナル）」を導入（2023年5月）  
尿中マイクロRNAを利用したがんリスク検査



## IX-7 ISO 委員会

管理責任者 堀越隆之（品質）  
桑原香里（環境）

### <概要>

当院は 2001 年、「顧客満足」と「環境保全」を目的として、国際規格 ISO（国際標準化機構：International Organization for Standardization）の認証を取得しました。

当院では全ての業務について、ISO のマネジメントシステム規格に準拠したマニュアルを作成して運用しています。

ISO のマネジメントシステム規格にはいくつかの種類があります。「品質マネジメントシステム（ISO 9001）」は、良質なサービスを提供するためのシステムを管理する規格で、顧客満足度の向上を目的とした仕組みです。「環境マネジメントシステム（ISO 14001）」は、環境への影響を分析してリスクを最小限に抑えるためのシステムを管理する規格で、環境保全を目的とした仕組みです。

ISO の認証には外部機関による審査が必要です。認証を取得した後も、外部機関による毎年の定期審査と 3 年毎の更新審査を受ける必要があります。当院では 2022 年 10 月に 7 回目の更新審査を完了し、認証を継続しています。

- ・品質マネジメントシステム（適用規格：ISO9001:2015／JIS Q9001:2015）  
登録範囲：健診・一般診療の設計・開発、及びサービスの実施  
登録番号：1143  
認証：2001 年 12 月
- ・環境マネジメントシステム（適用規格：ISO14001:2015／JIS Q14001:2015）  
登録範囲：健診・一般診療の設計・開発、及びサービスの実施  
登録番号：E362  
認証：2001 年 12 月

### <活動内容>

ISO マネジメントシステムでは、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Act）を業務プロセスに組み込み、実施・運用→確認・評価→改善という継続的なサイクルを構築します。

具体的な活動として、受診者満足度アンケート（年 2 回）、内部監査（年 1 回）、定期的なマネジメントレビュー（マネジメントシステムを見直して有効性評価を行い、必要に応じて改善するプロセス）等を実施しています。

## X 編集後記

年報作成委員長 森山優

開設 40 周年を迎えた大宮シティクリニックはこの度、初めての年報を発刊する運びとなりました。

当院の歩みと新たな指針をはじめ、最新動向や独自の取り組み、各部門の活動等について、部門長・担当委員が中心となり作成致しました。今回は初刊ということもあり、業績・活動については 2022 年度及び 2023 年度上半期までの分を収載しております。

これからも全ての職員が一丸となって、予防医療の普及と実践に日々努めてまいります。これまでの皆様方のご協力に感謝申し上げますとともに、本年報を通じて当院への理解を更に深めていただき、引き続きご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

医療法人 大宮シティクリニック 年報（2022 年度）  
2023 年 12 月 発行

< 発行者 >

医療法人 大宮シティクリニック  
〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル 30 階  
TEL : 0570(039)489  
HP : [www.omiyacityclinic.com](http://www.omiyacityclinic.com)

< 年報作成委員会 >

委員長 森山優（副所長）  
副委員長 橋西真由美（健康相談室）  
事務局 木原翔太（健康相談室）  
委員 梶川歩美（看護部） 春山光（検査部）  
中澤浩子（放射線部） 岩田真由（総務企画部）





Omiya City Clinic